

ស៊ីយ៉ាម

JICA 海外協力隊 2021-7 次隊 カンボジア 理科教育 佐藤綾

任地コンポンチャム州へ到着！

首都プノンペンでの研修期間を終え、任地である、コンポンチャム州に到着しました。プノンペンから北東へ車で3時間ほどの位置にあり、メコン河に面しています。主な特産品はゴムやサトウキビで、郊外には農園が広がっています。また、メコン河を利用した漁業の様子も見られ、日本の田舎にきたような感覚になります。見所は、乾季（11月～5月）だけ竹製で手作りされた橋が出現します。また、プノンプロ・スレイ寺(男山・女山)という、20世紀半ばに造られた現代寺院があり、丘の麓には巨大な四面仏の顔を持った図書館や仏陀の彫像があります。ぜひコンポンチャムに遊びに来てください！



カンボジアと日本の繋がり



これは、カンボジアの紙幣 500 リエルです。日本円に換算すると 15 円くらいになるでしょうか。何か気づくことはありますか？

この紙幣には、2つの橋と日本の国旗が描かれています。国の顔でもある紙幣に他国の国旗がデザインされているなんて、珍しいですね。

では、なぜ、カンボジアの紙幣に日本の国旗が描かれているのでしょうか？

東南アジアを流れるメコン河。カンボジア国内を東西に分断しています。行き来するには川を渡らなければなりません。そこで、カンボジアの復興・経済発展への貢献として、日本が、交通輸送の改善を図るため「きずな橋」「つばさ橋」を、無償で建設します。「きずな橋」は、2001年、カンボジア初のメコン川を渡る全長 1360mの橋として開通。「つばさ橋」は、2015年、全長 2215mの橋として開通。この2つの橋は、国を超えたモノやヒトの移動がスムーズとなり、更なる経済の発展へと繋がってきました。「つばさ橋」の開通を記念して、新 500 リエル札が発行され、カンボジア・日本の国旗と共に、「きずな橋」(右側)と「つばさ橋」が描かれました。「きずな橋」が架かっている場所が私の任地、コンポンチャム州です。

